取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

COROLLA
RUMION

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS　目次

3 室内装備の使い方

1
2
3
4
5
6

さくいん

外観

車幅灯 P. 139
方向指示灯 P. 126
フロントワイパー P. 145
ボンネット P. 247
ムーンルーフ* P. 65
ドアミラー P. 58
方向指示灯 P. 126
補助確認装置 P. 60
ヘッドランプ（ロービーム） P. 139
フォグランプ* P. 144
ヘッドランプ（ハイビーム） P. 140

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

助手席 SRS
エアバッグ P. 76
ヘッドレスト P. 49
助手席アッパー
トレイ P. 225
シートベルト P. 51
リヤセンター
アームレスト* P. 232
A
B
C
ITIPR014b
リヤシート P. 46
リヤカップホルダー* P. 223
給油口オープナー P. 69
SRS サイドエアバッグ P. 76
フロントシート P. 44
グローブボックス P. 221

A

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B
ウインドウロックスイッチ P. 62
ドアロックスイッチ P. 35
ロックレバー P. 36
ALL AUTO
ITIPR015
パワーウインドウスイッチ P. 62

C

▶ アームレスト非装着車
フロントカップホルダー P. 223
パーキングブレーキ P. 127
コンソール小物入れ P. 225
アクセサリーソケット P. 231
ITIPR016
▶ アームレスト装着車
フロントカップホルダー P. 223
パーキングブレーキ P. 127
コンソールボックス P. 221
アクセサリーソケット P. 231
コンソール小物入れ P. 226
ITIPR017

インストルメントパネル

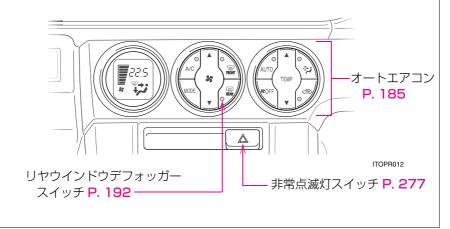
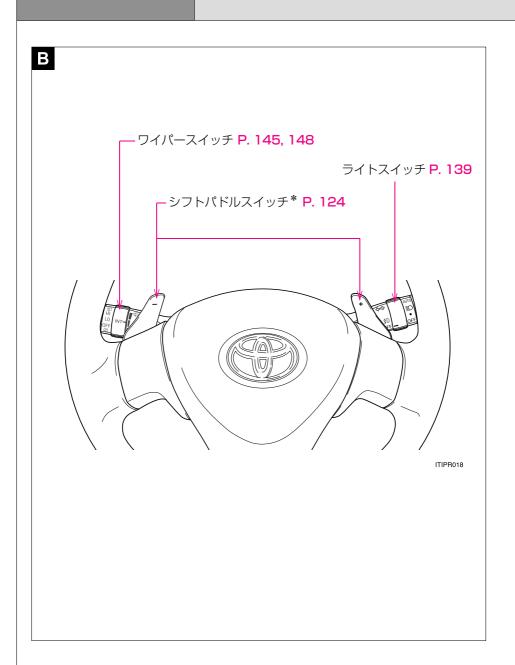
A

▶ マニュアルエアコン装着車

▶ オートエアコン装着車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B

ワイパースイッチ P. 145, 148
ライトスイッチ P. 139
シフトパドルスイッチ* P. 124
HI
LO
OFF
INT
AUTO
OFF
ITIPR018

C

エンジン（イグニッション）スイッチ
（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）
P. 117

ドアミラースイッチ P. 58

手動光軸調整ダイヤル* P. 141

4WD オートモード
スイッチ* P. 151

フロントワイパーデアイサー
スイッチ* P. 194

ENGINE START STOP
MIRROR
L R
AUTO
ETC
VOL

ITOPR008

ボンネットオープナー P. 247

ETC（メーカーオプション）* P. 155
カードホルダー* P. 228

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 95)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

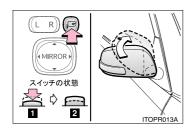
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

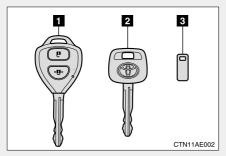
スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

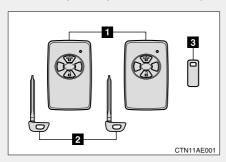
CTN11AE002

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 32）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 キーナンバープレート

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

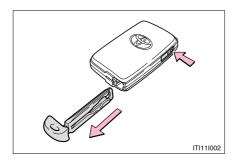
CTN11AE001

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 22）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 32）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ITI11I002

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときや、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 306）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 305）

■航空機に乗るときは

航空機に電子キー・ワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キー・ワイヤレスキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

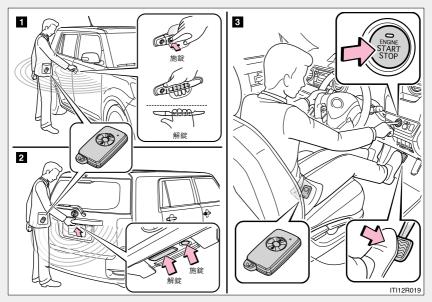
- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを分解しないでください。

■電子キーについて（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

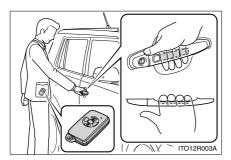
電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

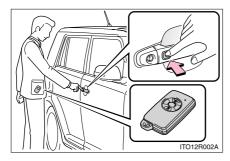
スマートエントリー&スタートシステム*

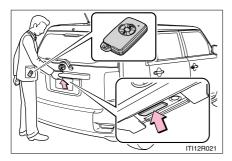
電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアを解錠・施錠する （→P. 23）
2 バックドアを解錠・施錠する （→P. 24）
3 エンジンを始動する （→P. 117）

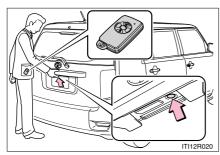
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

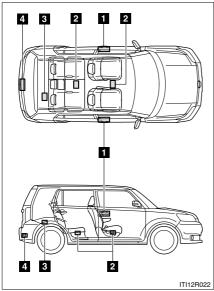
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は、解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

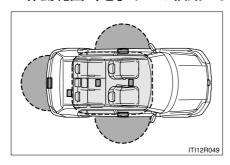
バックドアの解錠・施錠

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後3秒間は、解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1. 車外アンテナ
2. 車内アンテナ
3. ラゲージルーム内アンテナ
4. ラゲージルーム外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

フロント席・バックドアハンドルから周囲約70 cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

:エンジン始動時、または モード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。
（対処方法：→P. 306）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき

●複数の電子キーが近くにあるとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ 他の車の電子キー
・ 電波式ワイヤレスリモコン
・ パソコン

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●2 週間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかを行うと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 32）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 306）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～２年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します）スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P. 269）

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 30）

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの施錠・解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子キーがドア内収納部・ユーティリティスペース・インストルメントパネルやフロア上・パッケージトレイトリム（販売店オプション）などの上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約30 秒後に自動的に施錠されます）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとにもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 291)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアをスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と1回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください。(→P. 269)
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーをPにしてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

● ドアの施錠・解錠：→P. 306

● モードの切りかえ・エンジン始動：→P. 306

■電池が切れたときは

→P. 269

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 325）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

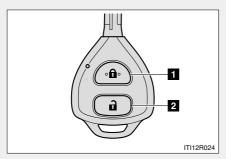
● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車内アンテナ・車外アンテナ（→P. 25）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

● 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

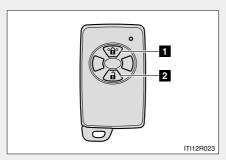
スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

知識

■作動の合図

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■半ドア警告ブザー(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

→P. 26

■電池の消耗について

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P. 268)

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 27

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

●近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器･大型ディスプレイがあるとき

●無線機や携帯電話･コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき

●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 26

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 306

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 325）

ドア（フロントドア・リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステム * やワイヤレス機能・キー・ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

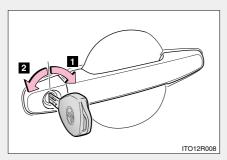
■ スマートエントリー＆スタートシステム *

→P. 23

■ ワイヤレス機能

→P. 32

■ キー

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 全ドアを施錠する

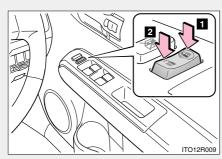
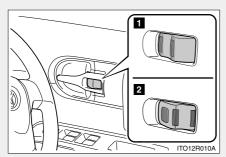
2 全ドアを解錠する

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車
メカニカルキーを使ってドアを施錠･解錠できます。（→P. 306）

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

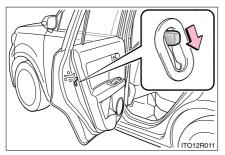
手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
" エンジン スタート ストップ " スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

ITO12R011

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを施錠する

●すべてのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

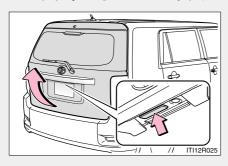
バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ スマートエントリー&スタートシステム*

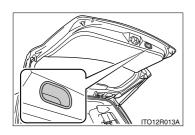
→P. 24

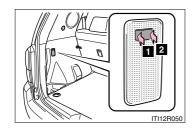
■ ワイヤレス機能

→P. 32

■ バックドアオープンスイッチ

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

知識

■バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

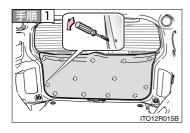
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ラゲージルームランプ＊

スイッチを ON にしておくと、バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

1 OFF

2 ON

■ バックドアが開かないときは

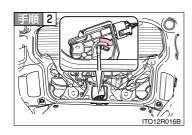
バックドアを内側から開けることができます。

マイナスドライバーを使い、端からゆっくり手前に引いて内張りを取りはずす

内張りはクリップ(13 個)で固定されています。

- 内張りの切り欠き（図でドライバーを挿入している位置）に、テープなどを巻いたマイナスドライバーを挿し込み、矢印の方向に動かします。
- クリップは、ひとつずつゆっくりとはずしてください。

レバーを押す

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉じてください
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアにはり付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

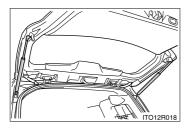
ITI12R027

ITI12R026

- ●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- ●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠ 注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない
- ●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

フラットシートにするには

手順1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

手順2 フロントシートのヘッドレストをはずす（→P. 49）

手順3 運転席の上下位置をいっぱいまで下げる

手順4 レバーを引きながら、フロントシートをいちばん前まで移動させる

手順5 フロントシートの背もたれを倒す

先端をリヤシートクッションの前端に押し込むようにして、いっぱいまで背もたれを倒します。

手順6 もとにもどすときは、逆の手順で操作する

警告

■**リクライニング調整について**

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■**フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

注意

■**シートを操作するときは**

●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態で操作をしないでください。

■**フラットシートについて**

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

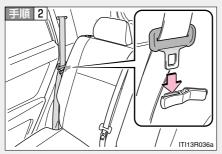
●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

リヤシート

リヤシートは前倒しすることができます。

■ 操作する前に

手順 1 フロントシートを調整する（→P. 44）

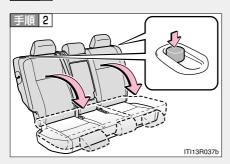
前倒ししたとき、あたらない位置までフロントシートを前方に動かします。

左右席のシートベルトを固定する

シートを前倒しする側のシートベルトのプレートを、ホルダーに挿し込みます。

手順 3 リヤセンターアームレストを格納する※（→P. 232）

※ 装着車のみ（助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です）

■ 前に倒すときは

手順 1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P. 49）

前倒しノブを押し下げてロックを解除し、背もたれを倒す

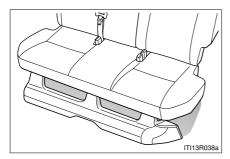
■ 背もたれをもとの位置にもどすときは

ITI13R046b

ロックされるまで背もたれをもとの位置にもどす

背もたれが確実にロックされたことを確認してください。

シート下収納

ITI13R038a

リヤシートの下に、小物を収納できるスペースがあります。

警告

■**背もたれを前倒しするときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、前倒しノブの後部に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにする

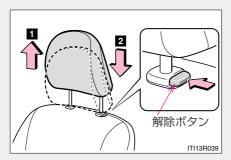
■**シート下収納について**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中にものの出し入れをしない

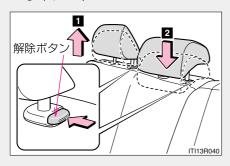
●転がりやすいものを入れない

ヘッドレスト

▶ フロントシート

1 上がる

2 下がる

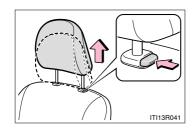
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ リヤシート

1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

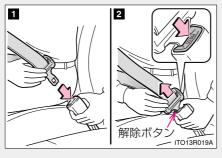
ITO13R017

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

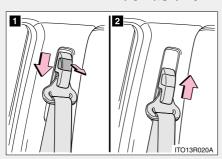
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方・はずし方

ITO13R019A

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

ITO13R020A

1 解除ボタンを引きながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果の確保に貢献します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

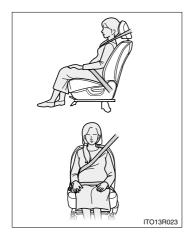
知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 51)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 85)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 51)

警告

■シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

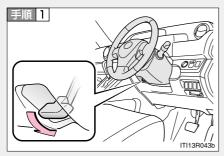
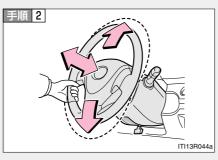
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

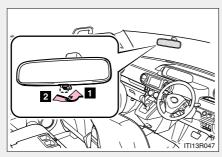
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

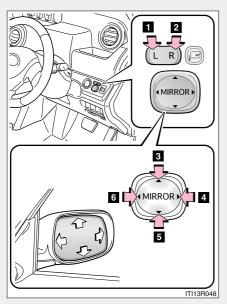
2 防眩時

⚠ 警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

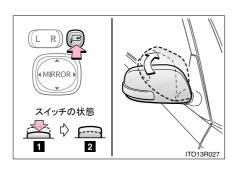
スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

3 上

4 右

5 下

6 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

1 格納状態

2 復帰状態

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→P. 192)

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーター（ミラーヒーター装着車）が作動しているときは

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置

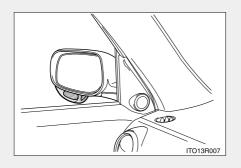
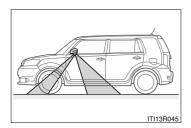
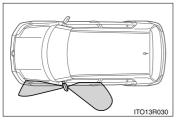
発進時またはごく低速時、助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

ITO13R007

知識

■ミラーに映るおよその範囲

ITI13R045

ITO13R030

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式ですので、鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

注意

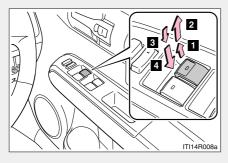
■**補助確認装置について**

●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。そのままにしておくと、視界のさまたげとなるおそれがあります。

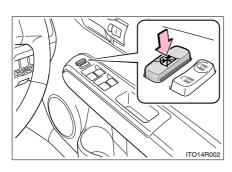
●車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

1 閉める
2 自動全閉※
3 開ける
4 自動全開※

※ 途中で停止するときは､スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと､運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン スイッチ“ LOCK ”または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ OFF 後の作動

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

⚠警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。

●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

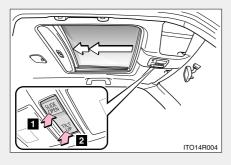
■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチで、ムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンすることができます。

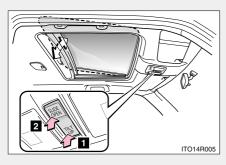
■ 自動開閉

1 ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウン

1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン スイッチ“ LOCK ”または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ OFF 後の作動

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフを開くと連動して開きます。

■閉め忘れ警告ブザー

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ LOCK ”の位置で、ムーンルーフが完全に閉まっていないとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチが OFF で、ムーンルーフが完全に閉まっていないとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“TILT UP”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2
その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 車を停止する

手順 2 スイッチの“TILT UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 3 スイッチから一度手を離し、再度“TILT UP”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10秒間停止し※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“TILT UP”側、または“SLIDE OPEN”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

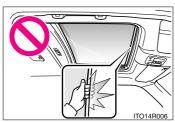
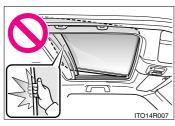
■ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ムーンルーフを、開閉やチルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

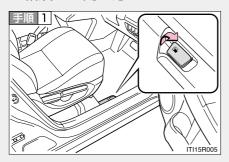
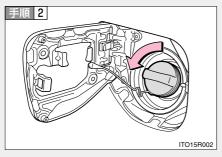
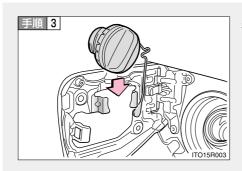
■ 給油する前に

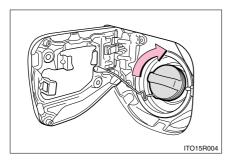
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアとドアガラスを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”にしてください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

ドアとドアガラスを閉め、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方

給油口オープナーを引いて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■**燃料の種類**

無鉛レギュラーガソリン

■**燃料タンク容量（参考値）**

50 L

警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
  キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき給油口から燃料が噴き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物にふれない
  再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- その他、ガソリンスタンドで掲示されている注意事項を守ってください。
  正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

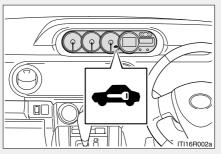
注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるために、メーター内のインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われている

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

●引っかかり等により、電気式ステアリングロックが解除されていない

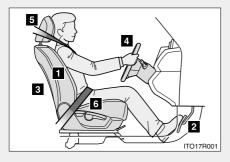
注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 44）
2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 44）
3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 44）
4 SRSエアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 56）
5 ヘッドレストの中央を耳のいちばん上あたりになるようにする（→ P. 49）
6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 51）

警告

■走行中は

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

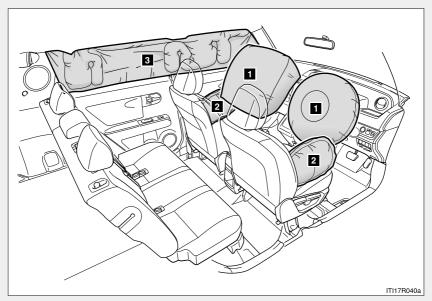
●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

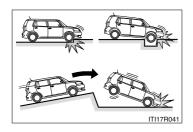
●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車両や標識のような衝撃によって移動や変形する物に衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

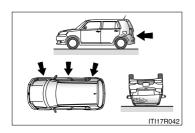
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

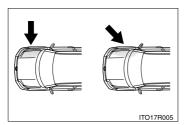
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

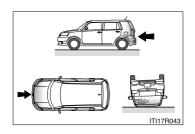
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき （SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

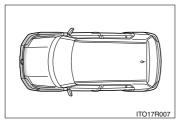
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- ●客室部分以外の側面への衝撃
- ●斜めからの衝撃

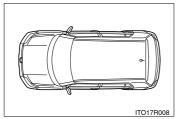
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- ●前方からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

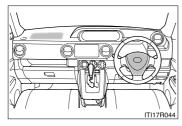
■ **トヨタ販売店に連絡が必要な場合**

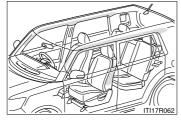
次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。
トヨタ販売店に連絡する前にバッテリーのケーブルをはずさないでください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

ITO17R007

● フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITO17R008

● SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

ITI17R044

● ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

ITI17R062

● SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

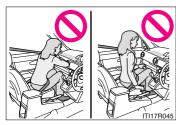
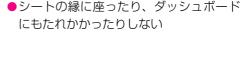
● SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席SRSエアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がSRSエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 95)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

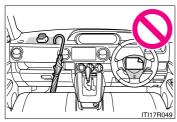
■SRS エアバッグについて

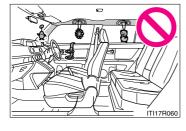
ITI17R047

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

ITI17R048

●助手席やリヤ外側シートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

ITI17R049

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

ITI17R060

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

警告

■SRS エアバッグについて

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
  皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- ●フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0 ：10kg まで
グループ 0^+ ：13kg まで
グループ Ⅰ ：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ ：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ ：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、Ⅰ に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 （10kg まで）	×	U	L
0^{+} （13kg まで）	×	U	L
Ⅰ （9 ～ 18kg）	前向き UF	U	L
	うしろ向き ×		
Ⅱ （15 ～ 25kg）	UF	U	L
Ⅲ （22 ～ 36kg）	UF	U	L

● 上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

L ：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎車」カテゴリーの子供専用シートにも適しています）

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0^{+} （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ （15 ～ 25kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ （22 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
II（15 ～ 25kg）		（1）	×
III（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着については子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- ●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- ●体が十分に大きく、子供専用シートが不要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 87)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 89)を確認して、適切なシートを選択してください。

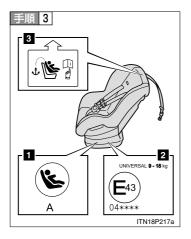
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
(例 2):質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

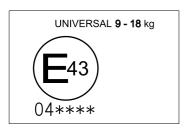
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 90)で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

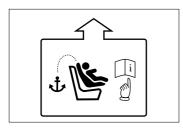
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 95）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
(→ P. 96)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→ P. 97)

リヤシートの外側席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

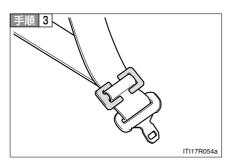
トップテザーアンカー
(→ P. 98)

テザーベルトを固定するときに使います。トップテザーアンカーは、リヤ外側シートに装備されています。

シートベルトで固定する

手順 1 背もたれが固定されていることを確認する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

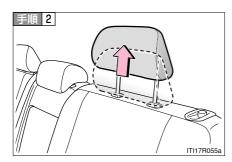
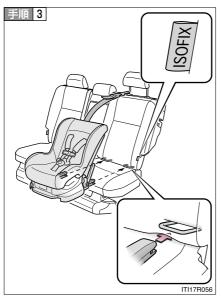
取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

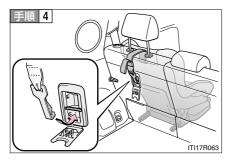
手順 1 背もたれが固定されていることを確認する

手順 2

ヘッドレストを上げる

手順 3

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれのあいだにあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシート付属の取り扱い説明書に従ってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**チャイルドシートについて**

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー･ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

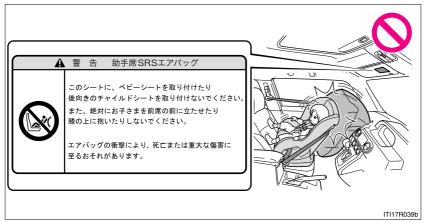
●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席とチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席をいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。(→P. 96, 97)チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

注意

■**トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくと、フタが破損するおそれがあります。

運転するときに

2

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける
→P. 114, 117

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 121）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 127）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 121）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 127）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 121）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを “ LOCK ” にしてエンジンを停止する

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

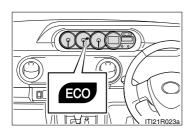
知識

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

シフトポジション D で走行中（シフトパドル装着車はシフトパドル未使用時）、エコドライブインジケーターランプが点灯すると、環境に配慮したアクセル操作をしていることをお知らせします。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。

■販売店で設定可能な機能

エコドライブインジケーターランプの ON ／ OFF を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 326）

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になる他、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

警告

■**運転するときは**

●走行中に決してシフトレバーを P の位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う場合があります。

●前方走行中に決してシフトレバーを R の位置にしないでください。トランスミッションに重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う場合があります。

●走行中はシフトレバーを N にしないでください。
N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中はエンジンを停止しないでください。
パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 122, 123)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オフロード走行をしないでください。(4WD 車)
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

警告

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■**停車するときは**

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがＰまたはＮ以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■**駐車するときは**

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●換気が悪い場所では、エンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**運転中は**

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■**駐車するときは**

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■**部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 292 を参照してください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

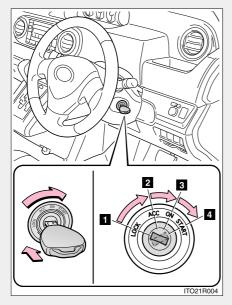
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジン スイッチを “ START ” の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ

1 “ LOCK ” (OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ ACC ”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

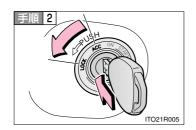
すべての電装品が使用できます。

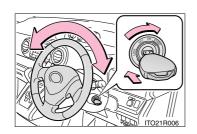
4 “ START ”

エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが“ ACC ”または“ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

⚠ 警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合は、エンジン スイッチを“ ACC ”にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジン スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

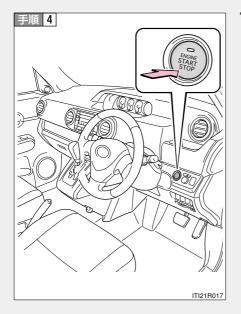
電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

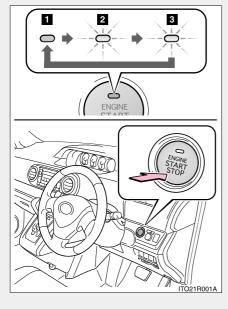
手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。
どのモードからでもエンジンを始動できます。

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

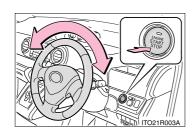
オーディオなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■ステアリングロックが解除できないときは

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右に動かしながら、再操作してください。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 73）

■" エンジン スタート ストップ " スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、" エンジン スタート ストップ " スイッチが自動で OFF になります。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 25 秒間（1NZ-FE エンジン搭載車は 20 秒間）保持します。
" エンジン スタート ストップ " スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 27

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 306

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 26

■ご留意いただきたいこと

→P. 28

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

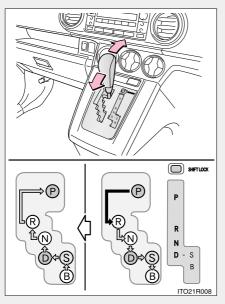
■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

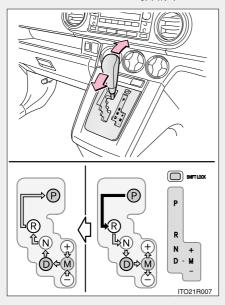
▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：

エンジン　スイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

▶ 2ZR-FAE エンジン搭載車

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：

エンジン スイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

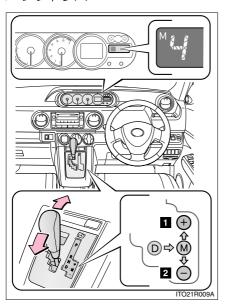
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	1NZ-FE エンジン搭載車	2ZR-FAE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
M		7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→P. 123）
S	坂道走行	
B	急な下り坂走行	

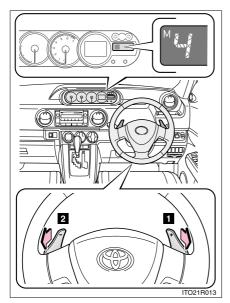
※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ（2ZR-FAE エンジン搭載車）

シフトレバーが M の位置にあるとき、シフトレバーまたはシフトパドルを次のように操作できます。

▶ シフトレバー

1 シフトアップ

2 シフトダウン

▶ シフトパドル*

1 シフトアップ

2 シフトダウン

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 304

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時の自動変速について

変速段を固定して走行しているときでも、エンジン回転数が上がりすぎそうなとき、または下がりすぎそうなときは、現在の変速段から自動的に 1 段シフトアップ、またはシフトダウンされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、操作してもシフトダウンできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■シフトレバーを M にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示の“ M ”が点灯しないときまたは点滅したときは

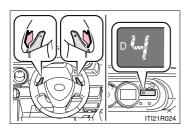
システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■M ポジションで走行中に停車したときは

●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。

●停車後、走行するときは M1 からの発進となります。

●停車時は M1 に固定されます。

■一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードについて

シフトレバーを D の位置で走行中、シフトパドルを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトポジション・シフトレンジ表示の D が点灯し、変速段が表示されます。
一時的な 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードは次の状態になると解除されます。

●同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

●シフトパドルのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき

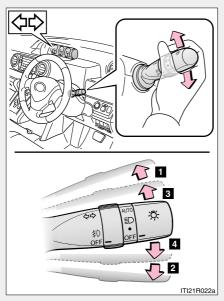
●車両停止状態のとき

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

知識

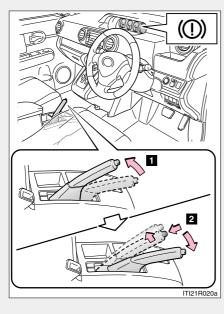
■作動条件

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 288

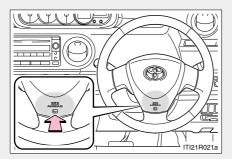
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 175)の記載を参照してください。

注意

■走行前の注意

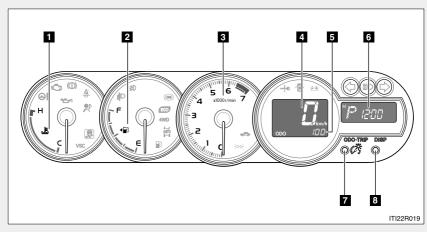
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [horn symbol] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 56）

計器類

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを “ ON ” にするとメーターが点灯します。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

2 燃料計

燃料残量を示します。

3 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 オドメーター／トリップメーター、メーター照度調整表示

オドメーター：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整表示：メーター照度を調整できます。

6 ドライブモニター

(→P. 135)

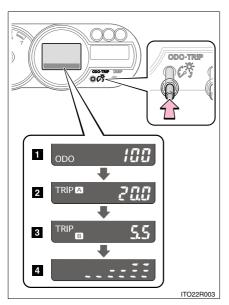
7 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切りかえができます。(→P. 131) また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

8 DISP ボタン

(→P. 135)

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

1 オドメーター

2 トリップメーターA※1

3 トリップメーターB※1

4 メーター照度調整表示※2
（車幅灯点灯時、表示されます）

※1 押し続けると0にもどります。

※2 押し続けると照度を調整できます。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

● タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

● 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P. 312)

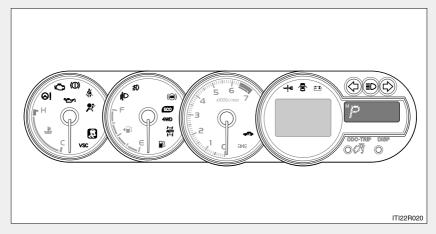
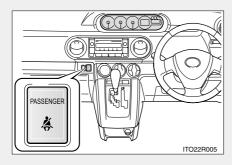
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

ITI22R020

▶ センターパネル

ITO22R005

■表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 126）

尾灯表示灯（→P. 139）

ヘッドランプ上向き表示灯（→P. 140）

フロントフォグランプ表示灯＊（→P. 144）

※
4WD オートモード表示灯＊（→P. 151）

※スリップ表示灯＊（→P. 152）

※エコドライブインジケーターランプ（→P. 105）

セキュリティ表示灯＊（→P. 73）

シフトポジション・シフトレンジ表示（→P. 121）

■警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→P. 288）

※ 作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”または、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ドライブモニター

ドライブモニターは、外気温・時刻や走行に関するさまざまな情報を表示します。

● 時計表示

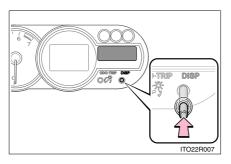
時刻を表示します。

● 外気温表示

外気温を表示します。

● トリップインフォメーション

航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

表示切りかえ

表示を切りかえるには、DISP ボタンを押します。

表示項目

■ 時計

現在の時刻を表示します。

■ 外気温

外気温を表示します。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押し続けます。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均車速

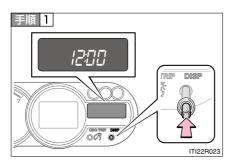
エンジンを始動してからの平均車速を通算で表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押し続けます。

■ 走行時間

エンジンを始動してからの走行時間を通算で表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押し続けます。

時計の調整

時計表示中に DISP ボタンを押し続けて、時計表示を点滅させる

手順 2 時計表示点滅中に DISP ボタンを押す

分表示が点滅します。

（時計表示点滅中に、操作をしないまま約 10 秒が経過すると、もとの時計表示にもどります）

手順 3 分表示点滅中に DISP ボタンを押して“分”を設定する

“分”を設定したら、DISP ボタンから手を離します。

約 5 秒経過すると、時表示が点滅します。

手順 4 時表示点滅中に DISP ボタンを押して“時”を設定する

“時”を設定したら、DISP ボタンから手を離します。

約 5 秒経過すると、もとの時計表示にもどります。

知識

■時計の正時合わせについて

時計表示が点滅しているときに DISP ボタンを押し続けると、正時に合わせることができます。

●0 ～ 29 分は切り下げられます。

●30 ～ 59 分は切り上げられます。

（例）1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は、2:00になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

●時計

●平均燃費

●航続可能距離

●平均車速

●走行時間

■外気温度表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20 km/h 以下）のとき

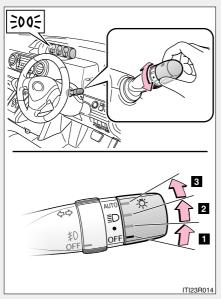
●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ライトスイッチ

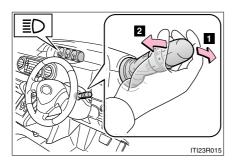
レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

1 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

2 上記ライトとヘッドランプを点灯

3 ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯*（コンライト）

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：
エンジン スイッチが“ ON ”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ハイビームにする

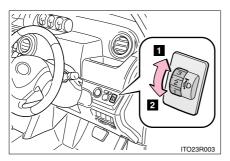
1 ランプ点灯時、ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

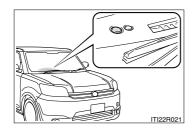
乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	2WD（前輪駆動）	4WD（4 輪駆動）
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	1.5	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	2	1.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3	2.5

知識

■ライトセンサー（コンライト装着車）

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能（コンライト装着車）

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ ON ”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモード、または OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。

■ライト消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ライト類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。
(コンライト装着車は、ライト消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します)

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ LOCK ”のときに働きます。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチが OFF のときに働きます。

■オートレベリングシステム(ディスチャージヘッドランプ装着車)

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

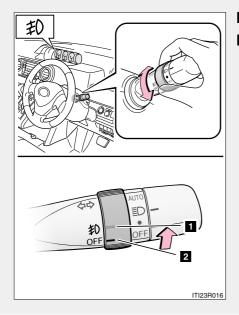
コンライト装着車は、ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧:→P. 325)

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フロントフォグランプスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

1 点灯する

2 消灯する

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

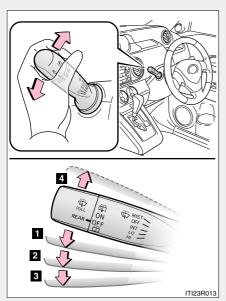
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

▶ 間欠時間非調整式

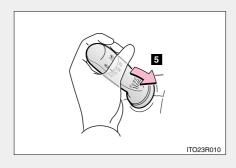
ITI23R013

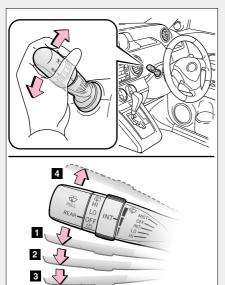
ITO23R010

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

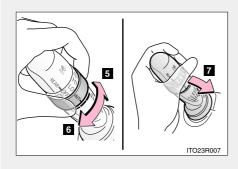
▶ 間欠時間調整式

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）

6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

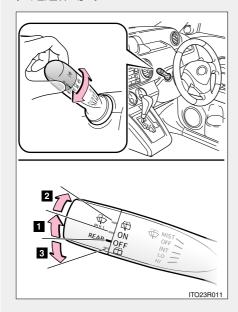
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

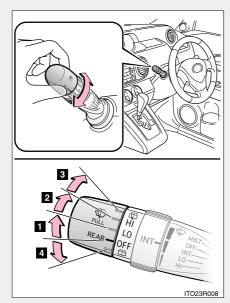
■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

▶定速作動式

1 作動
2 ウォッシャー液を出す（ワイパー作動中）
3 ウォッシャー液を出す（ワイパー停止中）

▶ 間欠作動式

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す（ワイパー作動中）

4 ウォッシャー液を出す（ワイパー停止中）

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
　エンジン スイッチが“ ON ”のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
　“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

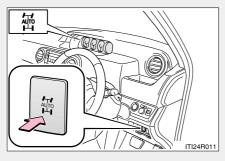
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモードスイッチ*

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて 2WD（前輪駆動）走行と 4WD（4 輪駆動）走行を自動的に切りかえます。

4WD オートモードを ON にする

4WD オートモード表示灯が数回点滅後、点灯します。

再度押すと解除されます。

知識

■4WD オートモード表示灯について

●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。
表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、2WD モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

・表示灯が点滅しなくなるまで車速を落とす
・表示灯が点滅しなくなるまで停車する（エンジンは停止しない）

●4WDシステムに異常が発生したときには、4WDオートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの状態にかかわらず 2WD モードとなります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）*

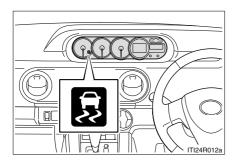
急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）*

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

VSC・TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したときは、VSC･TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

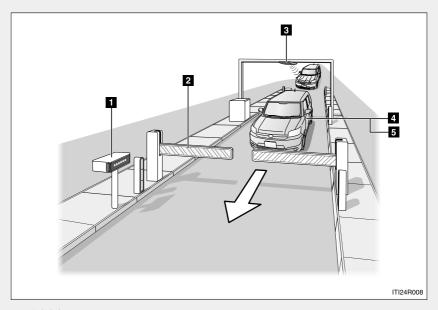
■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。
なお、この車は、工場出荷時に装着されるサイズ以外のタイヤを装着することはできません。故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、指定サイズ以外のタイヤは絶対に装着しないでください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ETC システム*

ETC（Electronic Toll Collection）システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。
路側無線装置と車両の ETC ユニットとのあいだで通信を行い、料金はお客様が登録された ETC カードの引き落とし口座から後日引き落とされます。

1 路側表示器

料金所の ETC レーンに設置されています。
進入車両に対し、メッセージを表示します。

2 発進制御装置（開閉バー）

料金所の ETC レーンに、必要に応じて設置されています。
通過車両の発進・停止を制御するもので、通信が正常に行われると開きます。

3 路側無線装置

料金所の ETC レーンに設置されています。
料金精算のため、車両の ETC ユニットとの通信を行うためのアンテナです。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

4 ETC ユニット

車両に装着されています。
ETC カードに格納されている、料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

5 ETC カード

ETC ユニットに装着する、IC チップを搭載した ETC ユニット用カードです。
IC チップに、料金精算に必要なデータを保持します。

警告

■ご利用の前に

安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き挿し、および ETC ユニットの操作を極力しないでください。
走行中の操作は、ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

注意

■その他のサービス（スマート IC など）ご利用時は

その他、ETC ユニットを用いたサービス（スマート IC など）には、さまざまな制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

注意

■**ETC カードを挿入する前に**

ETC カードの有効期限切れにご注意ください。ETC カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちの ETC カードに記載された、有効期限をあらかじめ確認してください。

■**ETC カードを挿入したあとに**

●ETC を利用する際は、あらかじめ ETC カードが確実に ETC ユニットに挿入されていることと、ETC ユニットが正常に作動していることを確認してください。

●ETC ユニットが ETC カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での ETC カードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

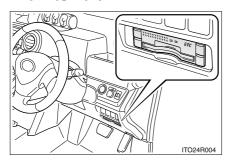
■**料金所を通過するときは**

●ETC レーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。

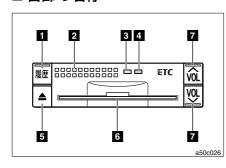
●ETC レーンに設置されている開閉バーは、ETC ユニットと路側無線装置のあいだの通信、あるいは ETC ユニットと ETC カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますのでご注意ください。

●ETC レーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

ETC ユニットについて

■ 取り付け位置

運転席インストルメントパネル右下にあります。

エンジン スイッチを " ACC " または " ON "（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、" エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（スマートエントリー＆ スタートシステム装着車）にすると、ETC ユニットの電源が入ります。

■ 各部の名称

1 利用履歴確認スイッチ
2 スピーカー部
3 緑ランプ
4 橙ランプ
5 イジェクトスイッチ
6 ETC カード挿入口
7 音量調整スイッチ

知識

■ **ETC を利用する前に**

はじめて ETC システムを利用するときは、あらかじめ ETC ユニットのセットアップ手続きが必要です。

●詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●セットアップ手続きには、別途費用が必要です。

■ **適合シールについて**

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。
また、本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

■ **フロントガラスのよごれや積雪がひどい場合は**

それらを取り除いてください。

■ **お車のナンバープレートが変更になった場合は**

再度 ETC ユニットのセットアップ手続きが必要になりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ **取り扱い上の注意**

●路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETC ユニットのアンテナ（インストルメントパネル中央付近に内蔵されています）上方には物を置かないでください。

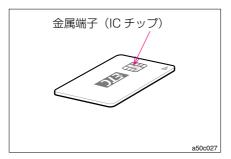
●ETC ユニットの内部に異物などを入れないでください。ETC ユニットが故障するおそれがあります。

●ETC ユニットに衝撃を与えないでください。ETC ユニットが故障、破損するおそれがあります。

●ぬれた手で ETC ユニットにふれたり、水（液体など）を付着させないでください。ETC ユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。

●汚れたときは、やわらかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス・シンナー・アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETC ユニットが変形・故障する場合があります。

●車両1台に対して複数のETCユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かないことがあります。

ETC カードについて

ETC カードの取得には、お客様自身による、別途申し込みが必要です。

注意

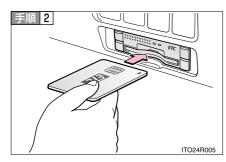
■取り扱い上の注意

- ETC カードの取り扱いについては、ETC カード発行会社の提示する注意事項に従ってください。
- ETC カードには有効期限があります。
  有効期限内の ETC カードをご利用ください。
- セロハンテープ･シールなどが貼ってある ETC カードや金属端子（IC チップ）が汚れている ETC カードは使用しないでください。
  ETC ユニットが正常に作動しなくなったり、ETC カードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

ETC カードを挿入する

手順 1 エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（スマートエントリー& スタートシステム装着車）にする

ETC ユニットの緑ランプと橙ランプが同時に点灯し、しばらくすると消灯します。

手順 2

ETC カードを挿入する

図のように正しい向きでしっかりと挿し込みます。

「ピッ」とブザーが鳴り、緑ランプが点滅します。

手順 3 ETC カードが認証される

正しく認証された場合：

音声案内	「**ポーン ETC カードが挿入されました**」
ETC ユニット	緑ランプが点灯したまま

ETC システムは、この状態でご利用ください。

正しく認証されなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（→P. 169）を音声でお知らせします。

知識

■橙ランプが点灯しているときは

ETC ユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。

■有効期限切れ・解約済みの ETC カードを挿入したときは

エラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

注意

■緑ランプが点滅しているときは

ETC カードを抜かないでください。
ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

■エラーが発生したときは

ETC ユニットや ETC カードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」(→P. 169)の記載に従って対処してください。

■エンジン始動時にエラーが発生したときは

いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。
エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ETC カード挿入時にエラーが発生したときは

いったん ETC カードを抜き、挿入方向を確認して、再度挿し込んでみてください。
エラーが解消しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ETC カードを抜き取る

手順 1 安全な場所に停車する

手順 2 エンジンを停止する前に ⏏ を押す

ETCカードを抜き取る前にエンジンを停止すると、「カード抜き忘れ警告」でお知らせします。

手順 3 ETC ユニットから ETC カードを抜き取る

知識

■ETC カードの盗難を防ぐために

ETC カードを残したまま、お車から離れないでください。

■カード抜き忘れ警告

ETC カードを抜き取る前にエンジンを停止すると、「**ピー カードが残っています**」という音声でお知らせします。

●音量を 0 に設定した場合は、「**ピー**」というブザー音のみでお知らせします。

●この機能を働かないようにする（OFF にする）ことができます。

■カード抜き忘れ警告の設定変更

ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯している状態で 履歴 と VOL を同時に押し続けます。（約 2 秒間）

●操作をするごとに「**ピッピッ**」と音がし、機能のON／OFFが切りかわります。

●操作は、安全な場所に停車した上で行ってください。

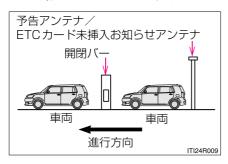
注意

■お車から離れるときは

ETC カードを車内に残したままにしないでください。車内の温度上昇により、ETCカードが変形したり、ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

ETC 利用中のランプ表示と通知音について

車両走行中は、状況に応じて ETC ユニットのランプ表示がかわり、併せて音声で通知されます。

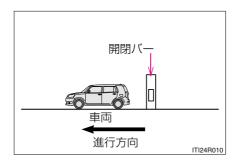
■ ETC ゲート（入口）・検札所・予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したとき

通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※	「**ピンポン**」

※ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（→P. 169）の記載に従って対処してください。

■ ETC ゲート（出口／精算用）を通過したとき

通信が正常に行われた場合：

ランプ表示	緑色ランプが点灯したまま
通知音	「**ピンポン**」
音声案内	通行料金を通知

通信が正常に行われなかった場合：

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」（→P. 169）の記載に従って対処してください。

知識

■通知音について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1 つの ETC ゲートで 2 回通知されることがあります。

■道路設備について

- ●予告アンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ゲートを利用できるかどうかを ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ●ETC カード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、ETC ユニットと通信し、ETC ユニットに正しく ETC カードが挿入されていない場合に、ETC ユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- ●予告アンテナ・ETC カード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

■ETC カードを挿入しないまま走行したときは

ETC カードが未挿入の状態で、予告アンテナや ETC カード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、「**ピー ETC をご利用できませんエラー 01**」という音声でお知らせします。これは、ETC システムが利用できないことを通知するもので、ETC ユニットの故障ではありません。

■通行料金の通知について

- ●通知される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。
- ●他のナビ案内などと重なったときは、通行料金が案内されないことがあります。

注意

■**走行時の注意**

●走行中、運転者は ETC ユニットのランプ表示を見ないでください。

●ETC ゲート進入時は、十分減速してください。

●ETC ゲート通過時は、ETC ゲート付近に表示されている案内に従って走行してください。

●ETC ゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示に従ってください。

●その他、道路事業者の発行する利用方法に従ってください。

●必ず、ETC ゲート（入口）で使用した ETC カードで、ETC ゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。

●ETC カード未挿入お知らせアンテナ・ETC ゲート・検札所・予告アンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

利用履歴の確認

有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。
停車中で、ETC カードが挿入され、緑ランプが点灯しているときに利用できます。

手順 1 履歴 を押す

最新の利用履歴が案内されます。

手順 2 履歴をさかのぼるときは再度 履歴 を押す

押すごとに古い利用履歴に切りかわります。

最も過去の履歴の次は、最新の履歴にもどります。

案内終了後、約 1 秒以上たってから 履歴 を押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。

知識

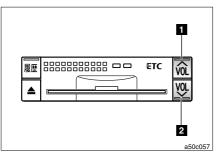
■利用履歴について

- 利用履歴はETCカードに記録されるため、最大記録件数は使用するETCカードにより異なります。（最大 100 件）
- 利用履歴の最大記録件数をこえた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。
- 利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。
- 通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。

注意

■使用時の注意

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。

音量調整

1 音量 大

2 音量 小

調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「**音量○○です**」
0	「**音声案内を中止します**」

知識

■音量調整について

●音量調整は、次のような案内に有効です。

・未セットアップ状態の通知
・エラー発生時のブザー音
・カード抜き忘れ警告
・利用履歴の確認
・音量調整時の案内

●音声案内を中止（音量 0）に設定してあっても、エラー発生時には音量 1 で出力されます。

●ETCユニットが未セットアップ状態(セットアップ手続きをしていない状態)の通知は、ETC ユニットを消音（音量 0）にすると出力されません。

記録された統一エラーコードの確認

ETC ユニットは、最後に発生した統一エラーコード（→P. 169）を記録しています。次の手順で確認できます。

手順 1 ETC カードを抜く（カードが挿入されている場合のみ）

手順 2 を押し続ける（約 2 秒以上）

最後に発生した統一エラーコードを音声でお知らせします。

統一エラーコード一覧

ETC の利用中にエラーが発生したときは、問題の概要と共に、統一エラーコード（エラー 01 ～ 07）を音声でお知らせします。
次の表に従って、それぞれ対処してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
01	ETC カード挿入異常	・通信時に ETC カードが挿入されていない ・ETC カードの挿入状態が悪い	ETC カードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
02	データ処理異常	・ETC カードへの読み出し、書き込みエラー ・ETC カードと ETC ユニットの接点不良(ETC カードアクセス中の瞬断) ・読み出し中、書き込み中カードのイジェクト	**ETC カード挿入時：** 挿入された ETC カードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 **ETC ゲート通過前：** 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。車両停止後、料金所係員の指示に従ってください。 **ETC ゲート通過後：** 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。料金所係員のいる一般レーン（ETC ／一般共用レーンを含む）へ進入してください。

統一エラーコード	異常の内容	異常の原因	対処方法
03	ETC カード異常	・ETCカードが故障している ・ICカード以外のカードが挿入され、通信しない ・ETC カードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
04	ETCユニット故障	自己診断の結果、ETC ユニットの故障と判断された	再度エンジンを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	ETC カード情報の異常	・ETCカードとの認証エラー ・ETCカード以外のICカードが挿入 ・認証中 ETC カードのイジェクト ・未セットアップ状態での ETC カードの挿入	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正しい ETC カードであること、および挿入方向などをご確認の上、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ETCユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ETC ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。 料金所係員の指示に従ってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了した	

知識

■この場合は異常ありません

●ETC カード未挿入お知らせアンテナ等と通信した際、統一エラーコード(07)と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。

●ETC ユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムなどが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード(01)または(07)と通知されることがありますが、ETC ユニットの故障ではありません。

■ETC ゲート通過後にエラーが発生した場合

ETC カードを抜くと、エラー音が停止します。再度、ETC カードを挿入すると、「**ポーン ETC カードが挿入されました**」の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・パッケージトレイトリム（販売店オプション）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ルーフラック（販売店オプション）などに荷物を積むときは

ルーフの中央部分に手をついたり、強く押したりしないでください。
ルーフがへこむおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 244）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急ハンドル・急ブレーキを避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用時、適切に装着されない場合、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■**フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン*

エアコンの設定

■ 基本設定

手順 1 冷房・除湿機能を ON にし、風量を調節するには、風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

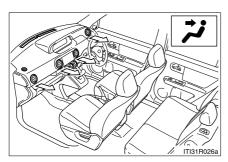
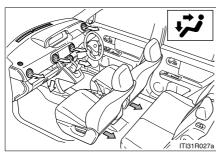
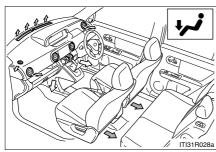
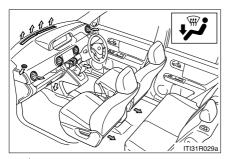
送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせてください。

手順 2 温度設定を変更するには、温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

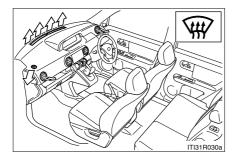
手順 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわし吹き出し口を選ぶ

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

上半身に送風

上半身と足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

：寒冷地仕様車のみ

ガラスの曇りを取る

自動的に外気導入に切りかわります。

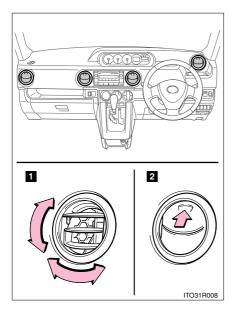
A/C を押し冷房・除湿機能を ON にすると、曇りが早く取れます。

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

風向きの調整・吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

フィンを動かして調整します。

2 吹き出し口の開閉

開けるときはフィンのくぼみ部分を押します。
閉めるときはフィンを押し下げます。

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

 を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口のため、温度調節ダイヤルの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

オートエアコン*

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

冷房・除湿機能の ON・OFF
(A/C ボタン)
設定温度表示
風量
フロントガラス曇り取り
オート設定
花粉除去
吹き出し口表示
吹き出し口切りかえ
風量切りかえ
送風停止
設定温度調整
外気導入·内気循環
切りかえ
ITO31R001

オートエアコンを使うには

  を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは の▲を、下げるときは▼を押す

手順 3 を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

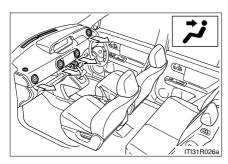
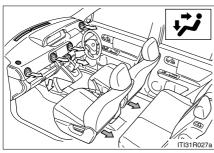
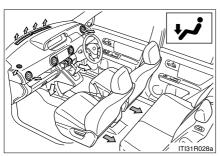
■ 基本設定

手順 1 風量をかえるには、（▲ ✻ ▼）の▲（増）か▼（減）を押す

送風を止めるときは ✻OFF を押します。

手順 2 設定温度をかえるには、温度を上げるときは（▲ TEMP ▼）の▲を、下げるときは▼を押す

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。選択した吹き出し口に従って次のように送風されます。

上半身に送風

上半身と足元に送風

⇦ : 寒冷地仕様車のみ

足元に送風

: 寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

: 寒冷地仕様車のみ

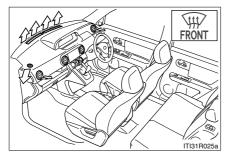
■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

フロントガラスの曇りを取るには

 を押す

エアコンが作動します。

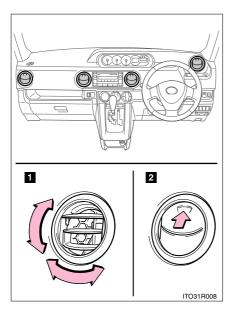
曇りが取れたら再度 を押すと、前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に を押す前のモードにもどります。

途中で作動を止めるときは、再度 を押すと前のモードにもどります。

風向きの調整・吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

フィンを動かして調整します。

2 吹き出し口の開閉

開けるときはフィンのくぼみ部分を押します。
閉めるときはフィンを押し下げます。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

●

を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切りかえについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって、自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押しても冷房・除湿機能が働かない場合があります。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、ガラスの曇りを防止するために次のような作動をする場合があります。

・ 内気循環に切りかわらない
・ エアコンの電源が自動的に入る
・ 約 1 分後に作動が停止する

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口のため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

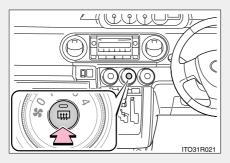
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

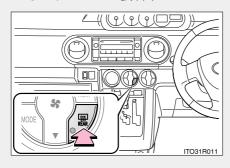
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

▶ マニュアルエアコン装着車

ON ／ OFF を切りかえる

寒冷地仕様車では、約 15 分で自動的に OFF になります。

▶ オートエアコン装着車

ON ／ OFF を切りかえる

約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ミラーヒーター＊について

リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ミラーヒーター*作動中の警告

ドアミラーの表面が熱くなります。やけどをするおそれがありますのでふれないでください。

注意

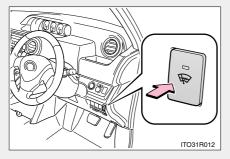
■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントワイパーデアイサー＊

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

ITO31R012

ON ／ OFF

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

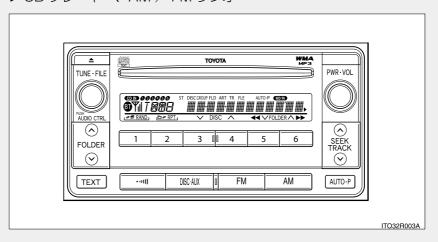
警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオインデックス

▶CD プレーヤー、AM ／ FM ラジオ*

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 197
CD プレーヤーの使い方	P. 199
MP3 ／ WMA ディスクの聞き方	P. 205
快適に聞くために	P. 212
AUX（外部入力接続）端子の使い方	P. 214
アンテナ	P. 216

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

注意

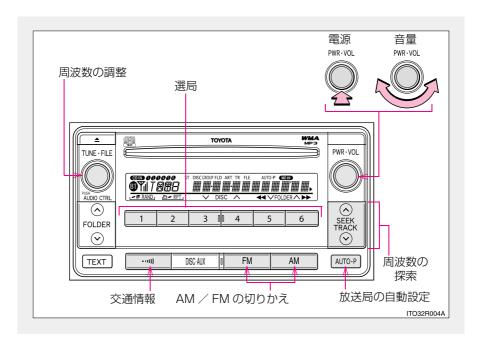
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

電源
音量
周波数の調整
選局
周波数の探索
交通情報
AM ／ FM の切りかえ
放送局の自動設定
ITO32R004A

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1

をまわして、または

の "Λ"（高い周波数）側、または "V"（低い周波数）側を押して、お好みの放送局を探す

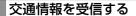
手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を " ピッ " と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

AUTO·P を " ピッ " と音が鳴るまで押す

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると " ピー" と音が鳴ります。

交通情報を受信する

 を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ 交通情報について

- 新車時は、1620kHz にセットしてあります。
- AMラジオモードのとき [·ıılı] を "ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を [·ıılı] に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。
- [·ıılı] を 押して、ラジオを受信しているときは、

・ [1] 〜 [6] ・ [AUTO·P] を操作しても、周波数は切りかわりません。

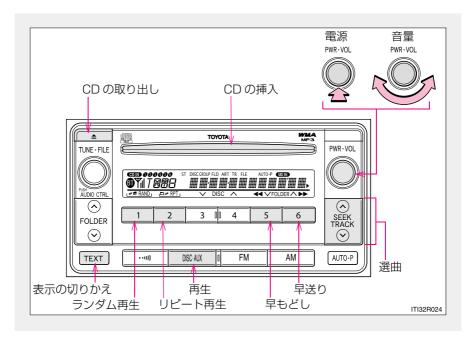
■バッテリーとの接続が断たれたときは

[1] 〜 [6] に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

- アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。
- [AUTO·P] を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。
- ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。(→P. 216)

CD プレーヤーの使い方

電源
PWR・VOL
音量
PWR・VOL
CD の取り出し
CD の挿入
選曲
表示の切りかえ
ランダム再生
再生
リピート再生
早送り
早もどし
ITI32R024

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

[⏏] を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

の "Λ"（次曲）側、または "V"（前曲）側を押して、聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし・早送りする

早もどしするときは [5]（◀◀）を、早送りするときは、[6]（▶▶）を押し続ける

リピート（RPT）再生する

2 （RPT）を押す

ランダム（RAND）再生する

1 （RAND）を押す

もう一度押すまで、無作為な順序で曲が再生されます。

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合は、 TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

" ERROR "：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

■再生可能な CD

次のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性･傷･汚れ･劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できない CD・アダプター

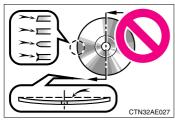
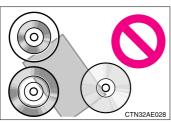
次のような CD・8cm CD アダプター・DualDisc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

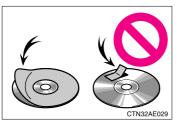
CTN32AE026

●直径 12cm、または 8cm の円形以外の CD

CTN32AE027

●低品質または変形している CD

CTN32AE028

●記録部分が透明または半透明の CD

CTN32AE029

●セロハンテープ・シール・CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

⚠ 注意

■CD プレーヤーの取り扱いについて

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

●CD 挿入口に CD 以外のものを入れない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

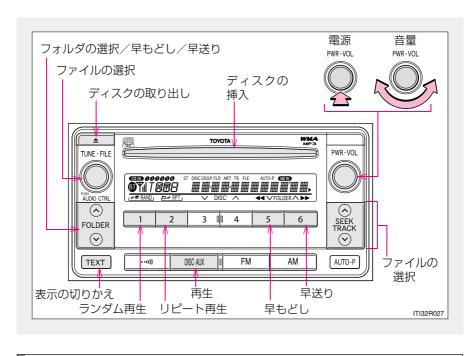
●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

ITO32R021

●一度に２枚以上の CD を挿入しない

MP3 ／ WMA ディスクの聞き方

フォルダの選択／早もどし／早送り
ファイルの選択
ディスクの取り出し
ディスクの挿入
電源 PWR・VOL
音量 PWR・VOL
TOYOTA
WMA MP3
TUNE・FILE
PUSH AUDIO CTRL
FOLDER
PWR・VOL
SEEK TRACK
1 2 3 4 5 6
TEXT
DISC・AUX
FM
AM
AUTO・P
ファイルの選択
表示の切りかえ
ランダム再生
再生
リピート再生
早送り
早もどし
ITI32R027

MP3 ／ WMA ディスクを挿入する、または取り出す

ディスクを 1 枚挿入する、または [▲] を押してディスクを取り出す

早もどし・早送りする

早もどしするときは [5]（◀◀）を、早送りするときは、[6]（▶▶）を押し続ける

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる

■ 次フォルダを選ぶ

の“∧”側を押す

■ 前フォルダを選ぶ

FOLDER の“V”側を押す

最初のフォルダにもどるには、

の“V”側を " ピッ " と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する

をまわして、または

の "Λ"（次ファイル）側 、または "V"（前ファイル）側を押して、聞きたいファイルを探す

リピート（RPT）再生する

■ ファイルをくり返して再生する

2 （RPT）を押す

■ フォルダをくり返して再生する

2 （RPT）を " ピッ " と音が鳴るまで押す

ランダム（RAND）再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生する

1 （RAND）を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生する

1 （RAND）を " ピッ " と音が鳴るまで押す

表示を切りかえる

TEXT を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル（MP3 のみ） → 曲名 → アーティスト名

知識

■表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。
フォルダ番号・フォルダタイトル・ファイル名などが 13 文字以上の場合は、
TEXT を 1 秒以上押し続けることにより、13 文字目以降を表示できます。
表示できるのは最大で 24 文字です。
TEXT をもう一度 1 秒以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。
記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ランダム再生・リピート再生の解除

もう一度 1 （RAND）または 2 （RPT）を押します。

■エラー表示

" ERROR "：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレーヤー内部に異常があるときに表示されます。

" NO MUSIC "：ディスク内に MP3 ／ WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■再生可能なディスク

次のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できないことがあります。

■CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生を停止します。

■ **ディスクをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると**

ディスクが傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■ **レンズクリーナー**

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

■ **MP3 ／ WMA ファイルについて**

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA（Windows Media™ Audio）は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できる MP3 ／ WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

● 再生可能な MP3 ファイルの規格について

・ 対応規格
  MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)
・ 対応サンプリング周波数
  MPEG1 LAYER3：32、44.1、48 (kHz)
  MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24 (kHz)
・ 対応ビットレート
  MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
  MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
  ※ VBR に対応しています。
・ 対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

・ 対応規格
WMA Ver.7、8、9
・ 対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
・ 対応ビットレート
Ver.7、8： CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて
MP3 ／ WMA ファイルの再生に使用できるメディアは CD-R および CD-RW です。
CD-R、CD-RW の状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて
使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

・ ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2
・ ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3 ／ WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

・ 最大ディレクトリ階層：8 階層
・ 最大フォルダ名／ファイル名文字数： 全角 16 文字（半角のみのときは 32 文字）
・ 最大フォルダ数：192（ルート含む）
・ ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について
MP3 ／ WMA と認識し再生するファイルは、MP3 ／ WMA の拡張子 ".mp3" または ".wma" が付いたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3 ／ WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

●ID3 タグ／ WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

●MP3 ／ WMA の再生について

MP3 ／ WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3 ／ WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3 ／ WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは、音楽データのみ再生できます。

●拡張子について

MP3 ／ WMA 以外のファイルに ".mp3" または ".wma" の拡張子が付いていると、MP3 ／ WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

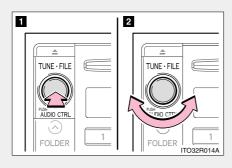
●再生について

・安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
・CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
・MP3 ／ WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
・ディスクに MP3 ／ WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

注意

■**使用できないディスク・アダプター（→P. 203）**

■**CD プレーヤーの取り扱いについて（→P. 204）**

快適に聞くために

1 ツマミを押して、調整したいモードを表示させる

2 ダイヤルをまわして、音質と音量バランスの設定を変更する（→P. 213）

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

設定を変更するには

■ 調整モードの切りかえ

を押すごとに、次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質・音量バランスの調整

をまわして、音質・音量バランスのレベルを調整します。

<table>
<tr><th>調整モード</th><th>表示</th><th>レベル</th><th>左にまわす</th><th>右にまわす</th></tr>
<tr><td>前後音量バランス</td><td>FAD</td><td>R7 ～ F7</td><td>後側大</td><td>前側大</td></tr>
<tr><td>低音※1</td><td>BAS</td><td>－５～５</td><td rowspan="2">弱</td><td rowspan="2">強</td></tr>
<tr><td>高音※1</td><td>TRE</td><td>－５～５</td></tr>
<tr><td>左右音量バランス</td><td>BAL</td><td>L7 ～ R7</td><td>左側大</td><td>右側大</td></tr>
<tr><td rowspan="4">音量補正</td><td rowspan="4">ASL</td><td>OFF</td><td colspan="2" rowspan="4">右へまわす
OFF ⇄ LOW ⇄ MID ⇄ HIGH
左へまわす</td></tr>
<tr><td>LOW</td></tr>
<tr><td>MID</td></tr>
<tr><td>HIGH</td></tr>
</table>

※1 音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーそれぞれで調整できます。

知識

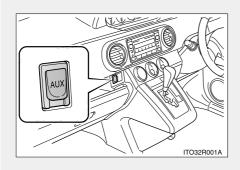
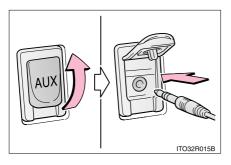
■ ASL※2（音量補正）について

車速に応じて音量・周波数特性を自動的に制御し、いつも最適な音量・音質を実現するシステムです。

HIGH・MID・LOW の順に補正量が小さくなります。

※2 ASL は Automatic Sound Levelizer の略です。

AUX（外部入力接続）端子の使い方*

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

ポータブルオーディオプレーヤーなどとの接続

フタを開けてポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する

市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子とAUX端子とを接続します。

接続する機器の電源がOFFの状態で接続してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

使用するときは

手順 1 DISC·AUX を押す

手順 2 接続した機器の電源を ON にし、再生を開始する

操作方法は、接続する機器の取り扱い説明書を参照してください。

● 音量は、接続した機器および車両の

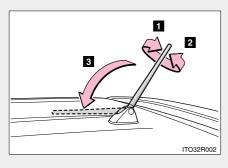
を操作して調整します。

● 音質は、接続した機器側で調整します。

使用しないときは、接続した機器側で停止操作を行い、電源を OFF にします。

 注意

■故障を防ぐために

端子に異物が入ったり飲料水などがかかったりするのを防ぐため、機器を接続していないときは、AUX 端子のフタを閉めておいてください。

アンテナ

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

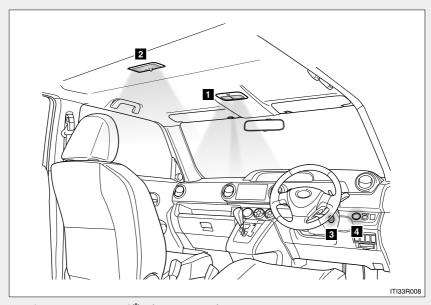
ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立ててください。

注意

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

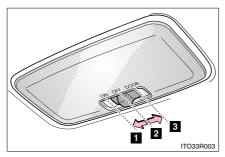
- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

室内灯一覧

1 パーソナルランプ*（→P. 218）

2 ルームランプ（→P. 218）

3 エンジン スイッチ照明*

4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ルームランプ

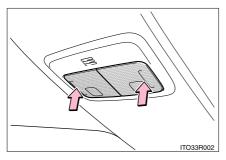
1 ランプを点灯する

2 ランプを消灯する

3 ドアポジション（ドア連動）をON にする

パーソナルランプ*

ランプを点灯・消灯する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■自動消灯機能

半ドア状態で、ルームランプのスイッチがドアポジションのときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■イルミネーテッドエントリーシステム

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジン スイッチの位置により、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

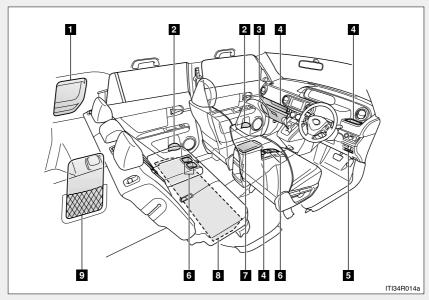
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチの状態により、各部の照明※が自動的に点灯・消灯します。

※ ルームランプはスイッチがドアポジションのときに作動します。

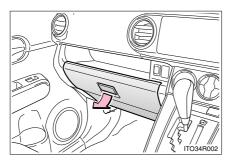
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 326）

収納装備一覧

1 ユーティリティスペース*
2 ボトルホルダー
3 グローブボックス
4 オープントレイ
5 カードホルダー*
6 カップホルダー（フロント／リヤ*）
7 コンソールボックス*
8 シート下収納（→P. 47）
9 ルーフサイドネットポケット*

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

グローブボックス

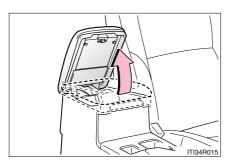
ITO34R002

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

警告

■走行中の警告

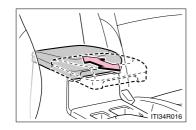
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

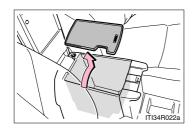
コンソールボックス*

ITI34R015

ノブを持ち上げてロックを解除して開く

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■コンソールボックスのフタをアームレストとして使うときは

フタを前後にスライドして位置を調整できます。

■コンソールボックス内トレイについて

フタを取りはずすと、大きなものも収納することができます。取りはずすときは切り欠き部分を持ち、上に引き上げてください。

警告

■走行中の警告

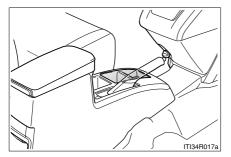
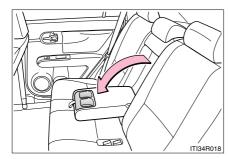
コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

ITI34R017a

▶ リヤ*

ITI34R018

リヤセンターアームレストを引き出す

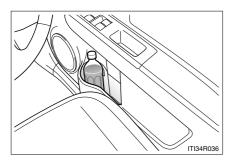
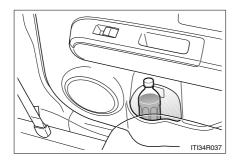
⚠ 警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボトルホルダー（ドアポケット）

▶ フロント

▶ リヤ

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

■収納してはいけないもの

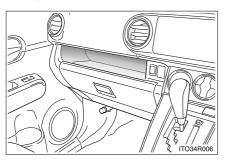
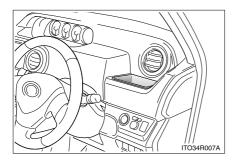
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

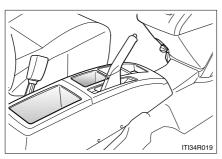
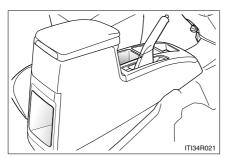
オープントレイ

▶ 助手席アッパートレイ

ITO34R006

▶ 運転席トレイ

ITO34R007A

▶ コンソール小物入れ（アームレスト非装着車）

ITI34R019

▶ コンソール小物入れ（アームレスト装着車）

⚠ 警告

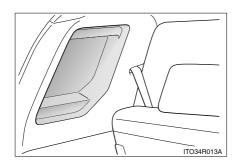
■**走行中の警告**

オープントレイ内には、転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

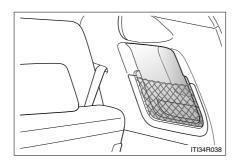
■**オープントレイについて**

運転席トレイやコンソール小物入れには、飲み物の入った缶やカップなどを置かないでください。
走行中に倒れて、中身がこぼれるおそれがあります。

ユーティリティスペース＊

警告

■走行中の警告

ユーティリティスペース内には、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないでください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

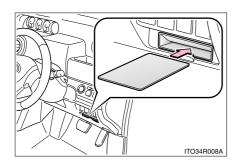
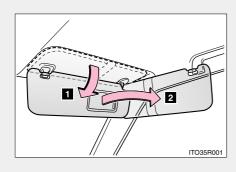
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ルーフサイドネットポケット*

警告

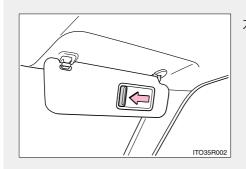
■収納してはいけないもの

ルーフサイドネットポケットには、極端に重いものやとがったもの、また凹面からはみ出るようなものを収納しないでください。
ネットが破損して荷物が転落したり、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

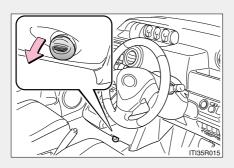
カードホルダー*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーを開けて使用します。

アクセサリーソケット

12V 10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを手前に引いて開ける

知識

■**使用条件**

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

■**ショートや故障を防ぐために**

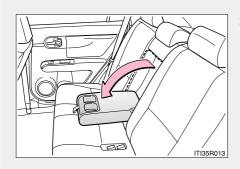
アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■**ヒューズが切れるのを防ぐために**

12V 10A をこえないようにしてください。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンを停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

リヤセンターアームレスト*

引き出して使用します。

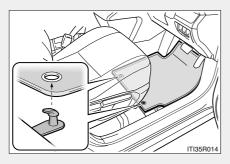
注意

■リヤセンターアームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

車に合ったものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマットは固定クリップで固定します。

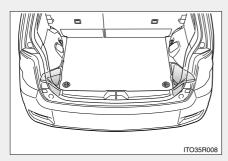
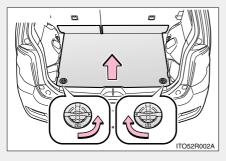
警告

■フロアマットを敷くときは

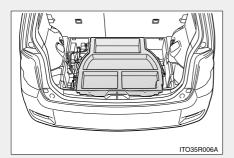
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- フロアマットがカーペット上に適切に敷かれているか、またフロアマットを裏返して使用していないかを確認する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない

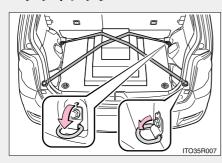
ラゲージルーム内装備

■ デッキサイドボックス

■ デッキボード

取りはずすときは、ダイヤルをまわしてロックをはずし、持ち上げます。

■ デッキアンダートレイ

ITO35R006A

デッキボードの下にあります。

■ デッキフック

ITO35R007

フックを使って、荷物を固定することができます。

知識

■デッキボードを取り付けるときは

図のようにデッキボード先端部が上を向くように持ち、車両に取り付けます。

デッキボード裏側のツメ（2ヶ所）を車両側に引っ掛け、手前にある固定用ダイヤルをまわして固定します。

警告

■デッキボードについて

必ずデッキボードをもとどおりに取り付けておいてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

■デッキボードの破損を防ぐために

デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

お手入れのしかた

4

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。（→P. 216）

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール＊

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの取りはずしについて

●通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。

●自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ルーフを清掃するときは

中央部分を強く押したり、体重をかけたりしないでください。
ルーフがへこむおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。

● 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

● 掃除機などで、大まかな汚れを取る

● スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける

● 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に、乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。（→P. 76）
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

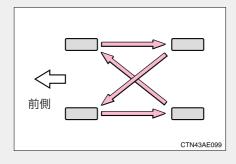
■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

標準タイヤ：

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">タイヤサイズ</th><th colspan="2">空気圧※
[kPa(kg/cm²)]</th></tr>
<tr><th>前輪</th><th>後輪</th></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15 91S</td><td>2ZR-FAE エンジン搭載の 2WD 車</td><td>240
(2.4)</td><td>240
(2.4)</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>220
(2.2)</td><td>220
(2.2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">205/55R16 91V</td><td>220
(2.2)</td><td>220
(2.2)</td></tr>
</table>

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2) ※

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤは全て同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

注意

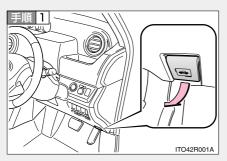
■走行中に空気もれが起こったら

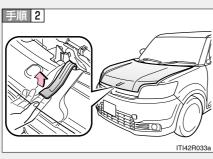
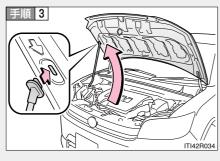
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

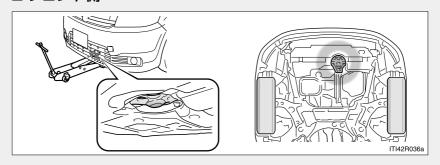
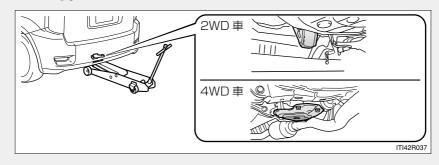
注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

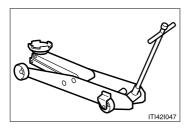
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■車両を持ち上げるときは

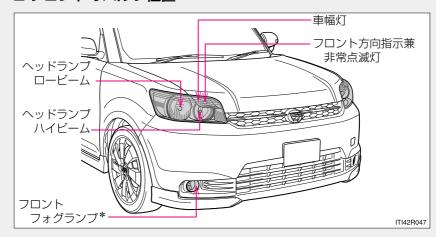
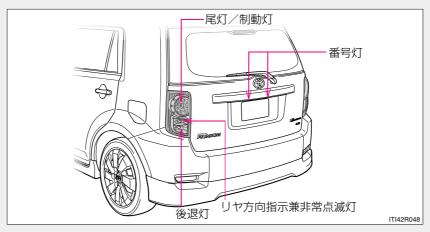
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。
- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取り扱い説明書を十分に確認の上、使用してください。
- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットしてください。ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かないでください。

電球（バルブ）の交換

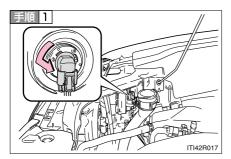
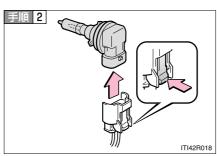
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

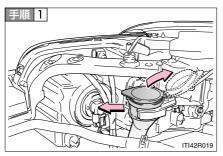
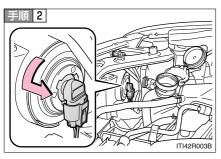
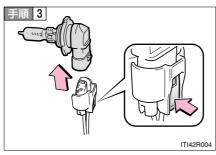
■ 電球の用意

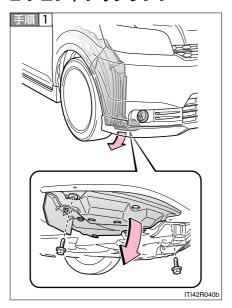
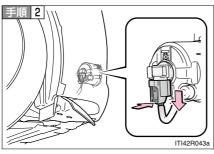
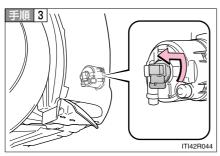
切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 323）

■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドランプ ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

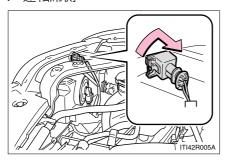
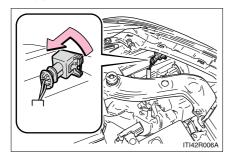
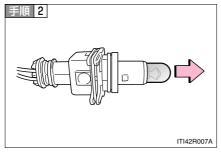
■ ヘッドランプ ハイビーム

ウォッシャータンクのフタを開け、クランプから注入口をはずし、横にずらす
（運転席側バルブの交換時のみ）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

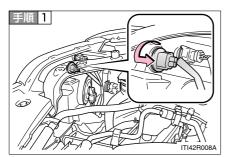
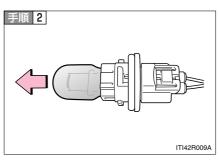
■ フロントフォグランプ*

ネジ（2 本）を取りはずし、フェンダーライナーをめくる

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

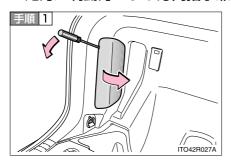
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

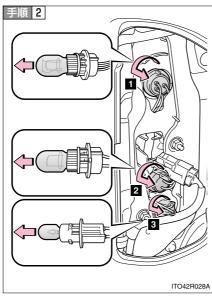
■ 車幅灯

手順 1 ソケットを取りはずす

▶ 運転席側

▶ 助手席側

手順 2 電球を取りはずす

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

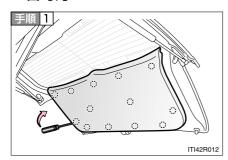
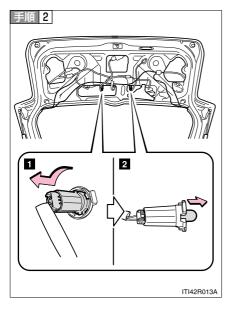
■ 尾灯／制動灯・リヤ方向指示兼非常点滅灯・後退灯

バックドアを開けて、図の位置にマイナスドライバーを挿し込んで、カバーを取りはずす

傷付きを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

1 尾灯／制動灯

2 リヤ方向指示兼非常点滅灯

3 後退灯

■ 番号灯

バックドアを開け、端からゆっくり手前に引いて、内張りをはずす

内張りはクリップ（13 個）で固定されています。

- 内張りの切り欠き（図でドライバーを挿入している位置）に、テープなどを巻いたマイナスドライバーを挿し込み、矢印の方向に動かします。
- クリップは、ひとつずつゆっくりとはずしてください。

1 ソケットを取りはずす

2 電球を取りはずす

■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ヘッドランププロービーム（ディスチャージヘッドランプ*）

● サイド方向指示兼非常点滅灯

● ハイマウントストップライト

知識

■ディスチャージヘッドランプ*の作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■LED ライトについて

サイド方向指示兼非常点滅灯とハイマウントストップライトは数個のLEDで構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**電球を交換するときは**

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■**ディスチャージヘッドランプ＊について**

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

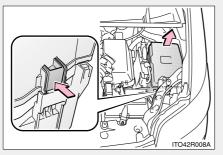
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

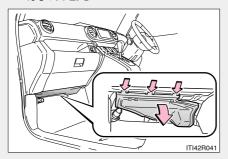
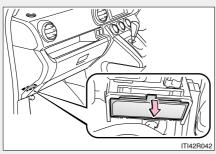
ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

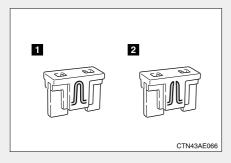
手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー＆ スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元

グローブボックス下カバー装着車はカバーを取りはずしてから、ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 263)で確認する

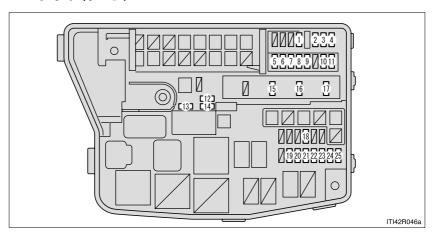
手順 4 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズはずしは、トヨタ販売店でお買い求めください。

1 正常

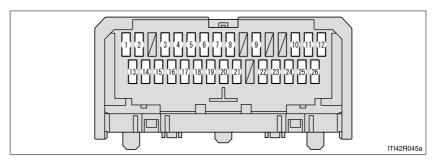
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-B2	10 A	エアコン、スマートエントリー＆スタートシステム、パワーウインドウ
2	ECU-B	10 A	メインボデー ECU、メーター、ETC、VSC
3	RAD NO.1	15 A	オーディオ
4	DOME	10 A	室内灯、ラゲージルームランプ、スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコン
5	AM2 NO.2	7.5 A	メインボデー ECU
6	ALT-S	7.5 A	充電系
7	TURN-HAZ	10 A	方向指示灯、非常点滅灯、メーターインジケーター
8	ETCS	10 A	EFI システム
9	AM2	30 A	始動系、EFI システム
10	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
11	IGT ／ INJ	15 A	点火システム、燃料噴射システム
12	SPARE	—	予備ヒューズ

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
13	SPARE	—	予備ヒューズ
14	SPARE	—	予備ヒューズ
15	EFI MAIN	20 A	EFI システム
16	HORN	10 A	ホーン
17	IG2	15 A	点火システム、燃料噴射システム
18	FR DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
19	IG2 NO.2	7.5 A	始動系
20	EFI NO.2	10 A	EFI システム
21	EFI NO.1	10 A	EFI システム
22	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）、 メーターインジケーター
23	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
24	H-LP RH LO	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
25	H-LP LH LO	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、リヤフォグランプ、フロントフォグランプ、光軸調整スイッチ
2	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、メーター照明、メインボデー ECU
3	FR DOOR	20 A	パワーウインドウ
4	RL DOOR	20 A	パワーウインドウ
5	RR DOOR	20 A	パワーウインドウ
6	SUNROOF	20 A	ムーンルーフ
7	CIG	15 A	アクセサリーソケット
8	ACC	7.5 A	電動ミラー、オーディオ、シフトロックシステム、メインボデー ECU、ETC、スマートエントリー＆スタートシステム
9	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター、EFI システム
10	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ、メーターインジケーター
11	IGN	7.5 A	ステアリングロック、EFI システム、スマートエントリー＆スタートシステム、エアバッグシステム
12	METER	7.5 A	メーター
13	SEAT HTR	15 A	—

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	HTR-IG	10 A	エアコン、リヤウインドウデフォッガー
15	WIPER	25 A	フロントワイパー
16	RR WIPER	15 A	リヤワイパー
17	WASHER	15 A	ウォッシャー
18	ECU-IG NO.1	10 A	自動光軸調整システム、メインボデーECU、シーケンシャルシフトマチック、電動パワーステアリング、電動クーリングファン、シフトロックシステム、VSC、オーディオ、EFI システム、4WD システム
19	ECU-IG NO.2	10 A	後退灯、オルタネーター、ムーンルーフ、リヤウインドウデフォッガー、エアコン、フロントワイパーデアイサー、方向指示灯、非常点滅灯、助手席シートベルト非着用警告灯、EFI システム
20	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
21	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、ABS、メインボデー ECU、EFI システム、シフトロックシステム
22	DOOR	25 A	パワードアロックシステム、メインボデー ECU
23	ACC-B	25 A	CIG、ACC
24	4WD	7.5 A	4WD システム
25	FR FOG	15 A	フロントフォグランプ、メーターインジケーター
26	AM1	7.5 A	ACC

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 251）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

● マイナスドライバー

● 小さいプラスドライバーなど

● リチウム電池

・ CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
・ CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

手順 1

カバーをはずす

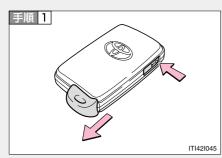
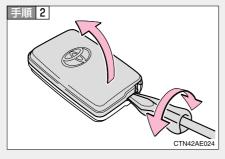
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いてて保護してください。

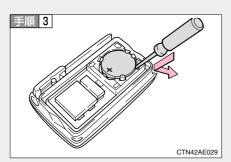
手順 2

モジュールを取り出す

コインなどを使用して、モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム（装着車のみ）・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）・CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたら、ウォッシャー液を補給する

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

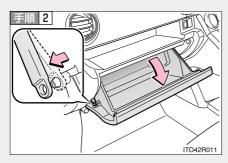
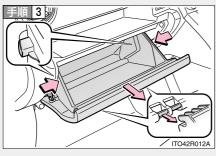
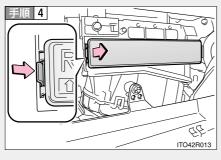
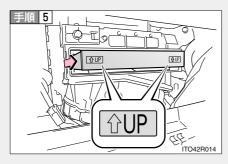
■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃・交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 エンジン スイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー＆ スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

グローブボックスの側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km [7,500km ※] ごと
交換：30,000km [15,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

なお、フィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

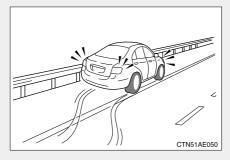
5

5-1. まず初めに

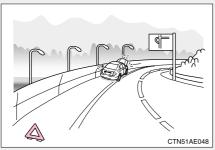
5-2. 緊急時の対処法

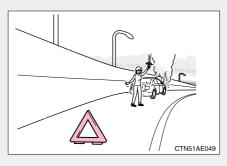
故障したときは

故障のときはすみやかに下記の指示に従ってください。

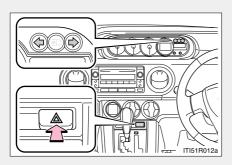
CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 277)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 278)

非常点滅灯

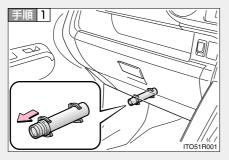
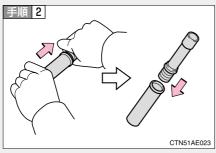
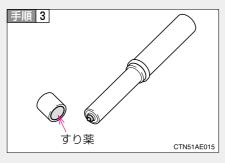
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時に使用してください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

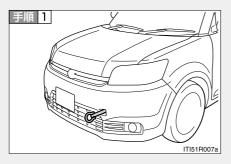
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

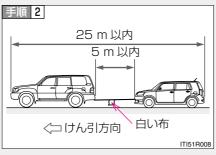
●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

手順 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m平方(30 cm×30 cm)以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを " ACC " または " ON " にしてください。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、" エンジン スタート ストップ " スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

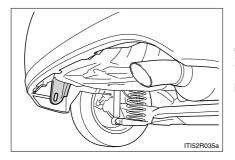
けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

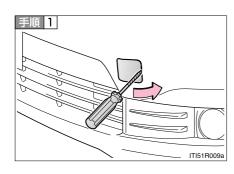
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

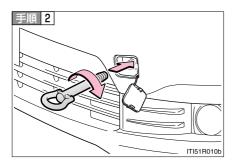
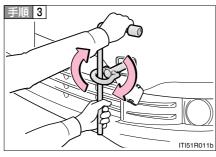
- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

緊急時のけん引

ITI52R035a

リヤの固縛用フックを緊急用フックとしても使用できます。
雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

けん引フックの取り付け方

ITI51R009a

マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

けん引フックを穴に挿し込み軽く締める

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 292

警告

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは、細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジン スイッチを“ LOCK ”（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**車両の損傷を防ぐために**

●けん引するときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

手順 1 エンジン スイッチを “ACC” または “LOCK” にする

手順 2 エンジンを再始動する

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

手順 1 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■**エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは、会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

※ **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h をこえたとき、警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS 警告灯（VSC 非装着車）** ABS の異常
	ABS &ブレーキアシスト警告灯（VSC 装着車） ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
VSC	**VSC 警告灯＊** VSC システム、TRC システムの異常
4WD	**4WD 警告灯＊** 4WD システムの異常
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯＊ 自動光軸調整システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約８Ｌ以下になった	燃料を補給する
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルトを非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■**助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告

■**パワーステアリング警告灯が点灯したときは**

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

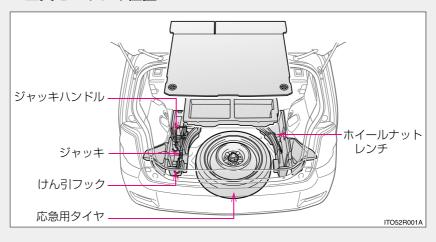
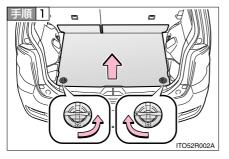
警告ブザー		スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	なし	（8 秒間点灯）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回		電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする または電子キーを携帯する
連続	連続		電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P 以外の状態で “エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する

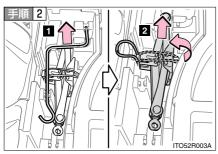
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 244 を参照してください)

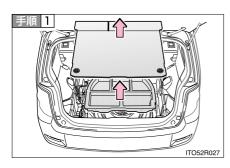
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

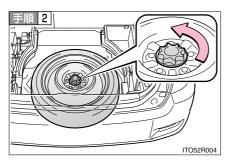
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

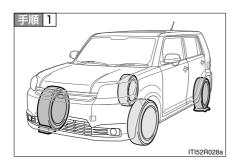
■ 工具とジャッキ位置

ジャッキの取り出し方

デッキボードを取りはずす

ダイヤルをまわしてロックをはずし、持ち上げます。

1 ジャッキハンドルを取りはずす

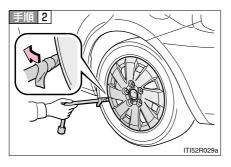
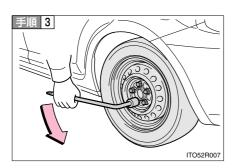
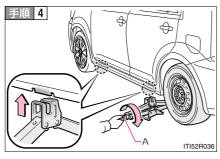
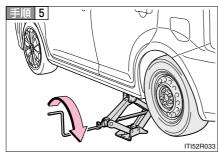
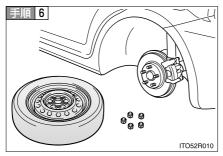
2 ゴムバンドをフックからはずし、ジャッキを取り出す

応急用タイヤの取り出し方

デッキボードを取りはずしてから、デッキアンダートレイを車両から降ろす

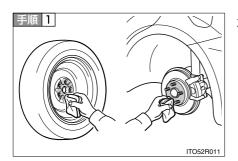
デッキボードの取りはずし方については、「ジャッキの取り出し方」の 手順 1 を参照してください。

留め具を取りはずし、タイヤを取り出す

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

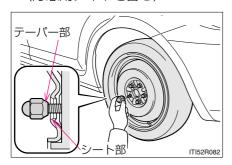
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

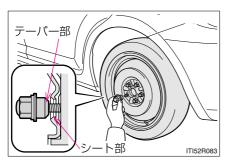
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

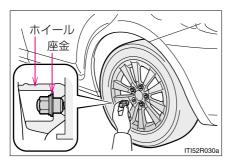
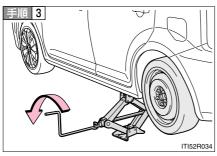
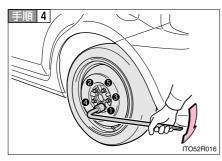
タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

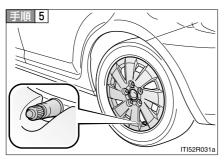
▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5

ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ (空気口) に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ スチールホイールのみ (応急用タイヤに取り付けることはできません)

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。
応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 322)

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

手順 1 後輪を応急用タイヤと交換する

手順 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■デッキボードを取り付けるときは

→P. 236

警告

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

■**応急用タイヤ装着中は**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS

●ブレーキアシスト

●VSC *

●TRC *

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム*

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる

●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない

●ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない

●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない

●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない

●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

●車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、次のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後は、すぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。
上記のことをお守りいただかないと、ナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 114, 117）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 114, 117）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。（→P. 73）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 308）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 303）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 308）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2

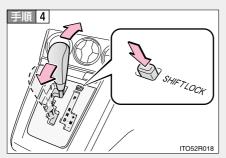
▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ACC ” にする

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだはレバーをシフトできます。

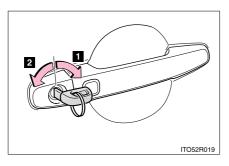
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。（→P. 21）

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 26）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

ITO52R019

メカニカルキー（→P. 20）を使って、次の操作ができます。

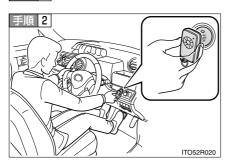
1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

モードの切りかえ・エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

手順 2

ITO52R020

電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

ブザーが鳴ります。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず、警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足をはなして“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを押します。スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 118)

エンジン始動：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

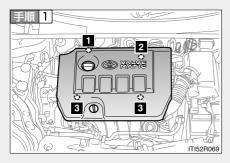
通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 269)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

2ZR-FAEエンジン搭載車はエンジンの上部のカバーをはずす

1 運転席側後方のクリップをはずす

2 助手席側後方のクリップをはずす

3 前方のクリップをはずす

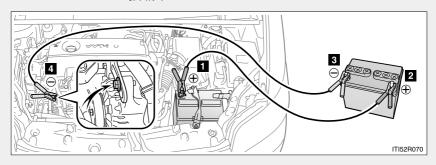
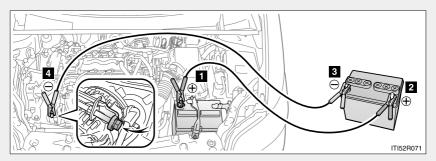
手順 2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（下図、→P. 309 の図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ INZ-FE エンジン搭載車

▶ 2ZR-FAE エンジン搭載車

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 5

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん “ ON ” にしてから自車のエンジンをかける

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

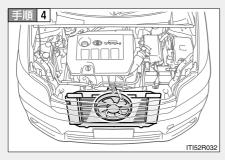
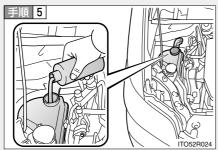
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給してください。
（別冊メンテナンスノート参照）

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- ●メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトからはなしてください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

▶ 2WD 車（前輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動し、4WD オートモードになっていることを確認する（→P. 151）

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルペダルを踏む

警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●前頁の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

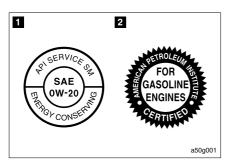
指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	50

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 ※
—API SM, EC/ILSAC GF-4,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30
—API SM, EC/ILSAC GF-4,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30
—API SM, EC/ILSAC GF-4,
SAE 10W-30
トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20
—API SL, EC SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30
—API SL, EC SAE 10W-30</td><td>1NZ-FE</td><td>3.4</td><td>3.7</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE</td><td>3.9</td><td>4.2</td></tr>
</table>

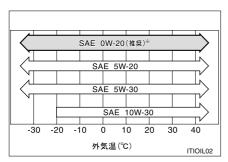
※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

● オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

● 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	1NZ-FE	5.5
	2ZR-FAE	5.8

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード　TC	1NZ-FE	2WD（前輪駆動）	8.09
	2ZR-FAE	2WD（前輪駆動）	8.11
		4WD（4 輪駆動）	7.98

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

トランスファー（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※ 1	71

※ 1 エンジン回転時に 294 N(30 kgf)の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※ 2 数	6 ～ 9

※ 2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量 押力 98 N(10 kgf) (冷間時)	1NZ-FE	11 ～ 13
	2ZR-FAE	7.6 ～ 10

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ

タイヤサイズ			タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
標準タイヤ	195/65R15 91S	2ZR-FAE エンジン搭載の 2WD 車	240 (2.4)
		上記以外	220 (2.2)
	205/55R16 91V		220 (2.2)
応急用タイヤ	T125/70D17 98M		420 (4.2)

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム ハロゲンヘッドランプ装着車： （バルブタイプ：HB4） ディスチャージヘッドランプ装着車： （バルブタイプ：D4S）	60 51 35
	車幅灯	5
	フロントフォグランプ*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	LED※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED※
	番号灯	5
車内	パーソナルランプ*	8
	ルームランプ	8
	ラゲージルームランプ*	5

※ LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

<table>
<tr><th>型式</th><th>エンジン</th><th>駆動方式</th></tr>
<tr><td>NZE151N</td><td>1NZ-FE（1.5L ガソリン）</td><td rowspan="2">2WD（前輪駆動）</td></tr>
<tr><td>ZRE152N</td><td rowspan="2">2ZR-FAE（1.8L ガソリン）</td></tr>
<tr><td>ZRE154N</td><td>4WD（4 輪駆動）</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム＊(→P. 22)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
ワイヤレスドアロック(→P. 32)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム＊(→P. 139)	ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め

6

車両仕様

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 219)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジン スタート ストップ”スイッチまたはエンジン　スイッチ OFF 後の作動	あり	なし
エコドライブインジケーターランプ (→P. 105)	表示灯の点灯	あり	なし

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックトールコレクション
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

■警告灯一覧

警告音が鳴った

■警告灯の点灯・点滅をご確認ください。（→P. 288）

■警告灯が点灯・点滅していないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことをご確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 29
	車外に出たとき	
	スマートエントリー＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 124
	ブレーキを踏んだとき	P. 108

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量 (参考値)</td><td colspan="5">50L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td colspan="5">無鉛レギュラーガソリン　P. 70, 318</td></tr>
<tr><td rowspan="7">タイヤが冷えているときの空気圧</td><td colspan="5">標準タイヤ :</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">タイヤサイズ</td><td colspan="2">空気圧 [kPa(kg/cm²)]</td></tr>
<tr><td>前輪</td><td>後輪</td></tr>
<tr><td rowspan="2">195/65R15 91S</td><td>2ZR-FAE エンジン搭載の 2WD 車</td><td>240(2.4)</td><td>240(2.4)</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>220(2.2)</td><td>220(2.2)</td></tr>
<tr><td colspan="2">205/55R16 91V</td><td>220(2.2)</td><td>220(2.2)</td></tr>
<tr><td colspan="5">応急用タイヤ: 420 (4.2) kPa (kg/cm²)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量（参考値）</td><td colspan="5">オイルのみ交換時
1NZ-FE エンジン搭載車 :3.4 L
2ZR-FAE エンジン搭載車 :3.9 L
オイルとフィルター交換時
1NZ-FE エンジン搭載車 :3.7 L
2ZR-FAE エンジン搭載車 :4.2 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td colspan="5">トヨタ純正モーターオイル
・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20)
・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30)
・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30)
・ SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20)
・ SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター
全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700
オープン時間　365日　9:00～18:00
所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ケ-81

M 12D63
01999ー12D63
NAI-2009年12月15日
2009年12月22日 初版
カローラ ルミオン